

# 平成22年度 研究指定校実践事例 西原中学校

## 1 研究主題 「伝え合い 生き生きと取り組む生徒の育成」

### ～ICT活用によるコミュニケーション能力の育成を目指した指導法の工夫～

生徒の問題解決能力や表現力、コミュニケーション力を向上させることを目指し、実践研究に取り組む。その実現のための具体的な方策として、生き生きとした授業づくりを目指して、コンピュータやデジタルコンテンツを活用し、生徒の情報活用能力を育てて、生徒の学ぶ意欲を高めることに取り組む。

## 2 研究の進め方

### (1) 教職員のリテラシー向上研修

- ・機器活用力リテラシー  
PCとプロジェクタの接続、設置の研修
- ・実物投影機の活用力リテラシー  
外部指導者による情報活用研修
- ・機器の特性を生かした活用法の研修  
全教科全教職員が機器を使った授業実践
- ・コンテンツリテラシー  
デジタル教科書の活用法
- ・モラルリテラシー  
情報モラルを扱った道德の授業実践  
外部講師による携帯・インターネット安全教室の実施



### (2) 教科指導等のICT活用の実践例



【国語科】実物投影機を使用して、写真や絵を参考に紙芝居のように創作文を発表し、生徒作品を投影した。

【社会科】写真・図表・グラフに注目させ、思考する場面を設定し、分かったこと、感じたことを書いたり、発表させたりした。

【数学科】デジタル教科書を活用し、1次関数などのグラフ指導に利用した。



【理科】電子黒板で実験の手順を説明し、生徒が進んで実験に取り組めるよう機器を活用した。ICT機器と黒板の併用で生徒の理解度を高めることができた。

【英語科】デジタル教科書を利用し、教科書本文の理解に視覚を活用して学習、画面を見ながら繰り返しの発音練習ができた。

【音楽科】実物投影機とデジタルテレビを利用し、鑑賞を通して感じたことを発表し合った。



【美術科】絵具の基本的な使い方、表現の工夫を気づかせる場面づくりに活用、生徒作品をデジタルカメラで撮影、提示した。

【技術・家庭科】コンピュータ室を利用して、アニメーションの制作に意欲的に取り組ませた。

【特別活動・総合的な学習の時間など】情報モラルの実技研修を行い、研究授業を実施、その他、総合的な学習発表会、進路学習会にて図書室、体育館、普通教室などそれぞれの場面で情報機器を活用した。

### (3) 機器を使いやすくするための工夫

- ・家庭用ワゴンに載せてコンパクトに整理・移動



## 3 成果と課題

### (1) 研究の成果

- ・配布資料を大きく提示することで、共有化が図れた。
- ・従来のブラウン管のテレビモニタによる提示に比べ、画面が大きいため見やすかった。
- ・授業を進めながら、必要により書き込みを入れられるので、ポイントを示しやすかった。
- ・動画やアニメーションも大画面で投影できるので、リアルで生徒の興味を引く授業展開ができた。
- ・実物投影機は、生徒でも簡単に操作できるので、レポートを拡大提示しながら、プレゼンテーションを容易に行うことが出来た。

### (2) 今後の課題

- ・パソコン、液晶プロジェクタ、実物投影機、e-黒板(インタラクティブユニット)等の

設置に時間がかかる(特にパソコンの起動)。

- 液晶プロジェクタを動かしてしまうと、再度キャリブレーションを行う必要があるので、授業の進行が途切れる。
- デジタル教科書などのコンテンツがないために、I C T機器を十分に活用できない教科がある。
- **Power Point** 等による自作コンテンツ開発のための時間的余裕がない。
- 今後、ねらいや実情に応じた素材を吟味して、I C T機器の活用を高めるための指導の工夫をする必要がある。また、発問、指示、説明など授業展開との関連で、I C T機器を効果的に活用していくことが課題である。